

# 右翼的労働戦線統一

## = 総評労働運動解体の攻撃を許すな

### 第6回定期大会 成功にむけて



81.10.2

No.859

#### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四七(二二)七二〇七

今日、「労働戦線統一」の動きが活発化し、総評は、この波に大きく揺れ動いている。この「労働戦線統一」の動きは、明白に日帝・支配階級の意を体現した右翼的労働運動Ⅱ産業報国会化をめざすものであり、平和と民主主義を旗印として戦後日本労働運動をリードしてきた総評労働運動を最後の解体せんとするものであり、軍大化・改憲を軸とする侵略総動員体

制作りの攻撃である。我々は、この労働運動の右翼再編を断固粉碎し、この間追求してきた「三里塚を闘う労働運動」「三里塚一反合闘争を基軸に、軍大化・改憲阻止」「80年代を闘う自前の労働運動」路線の真価を発揮し

### 「産業報国会」への道Ⅱ「基本構想」「統一準備会」を粉碎せよ!

まず、「労働戦線統一推進会」の動きを追ってみると、  
① 昨年九月三日、総評などの了解・合意のもとに「労働戦線統一推進会」が、民間六単産Ⅱ鉄鋼労連、全日通、ゼンセン同盟、電力労連、電機労連、自動車総連の各委員長・会長によって発足した。  
② そして、今年六月三日、この「統一推進会」は、「民間先行による労働戦線統一の『基本構想』」を発表、各単産の大会で参加の方向を確認し、年内に「統一準備会」を発足させ、「新らたな協議会」の発足を一九八二年とする方向を確認。

点とする戦争と反動攻撃の一環として、戦闘的労働運動の圧殺―総評労働運動の解体をめざした、支配階級の、鉄鋼、電力、自動車などの民間大手単産内右翼労働貴族を尖兵とした極めて挑戦的な攻撃に他ならない。  
一方、楨枝議長―富塚事務局長に代表される総評指導部は、支配者階級の意を体現したこの「統一推進会」からの明々白々の総評分断・解体攻撃に毅然と対決する事を回避した上で、(それ自身極めて控えめな最底限の条件Ⅱ)「五項目補強見解」を示すことで、なんとかパスに乗り遅れまいとの屈服的・受動的姿勢に終始し、結局、これらの右翼的勢力の「統一」をかたった右翼的分裂策動を際限もなく許してしまっているのである。

③ 総評第六三回定期大会(七月二〇〜二三日)は、統一推進会の『基本構想』に対し、これを認めたと上で、『五項目の補強見解』をもって、各単産の一致した対応を確認。  
④ その後開催された各単産大会では、「統一推進会」のメンバーである鉄鋼労連など六単産をはじめ、合化労連、電通労連、全鉦などが次ぎつぎと来たる十二月十四日発足予定の「統一準備会」への参加を決定した。  
⑤ 九月二六日、共同印刷労組が全印総連から脱退し、「統一準備会」への参加を表明。

つまり、総評指導部は、無原則に「もはや労働統一は時代の流れ」「乗り遅れてはいけない」「いまは誰が主導権を握るかの問題」として、次ぎつぎと屈服し、今日ではあの最底限の『五項目補強見解』すらとりあげてもよいという危機的な屈服にまで進んでいるのである。  
今、まさに問われているのは「空疎な数」ではなくて「真に闘える質」である。「幹部間のかけ引き」ではなくて「労働運動の原則にたちかえって、80年代を見すえた勝利の路線」こそが必要なのである。

### 軍事大國化攻撃の一環Ⅱ 総評労働運動の解体攻撃

こうして、「民間先行による労働戦線統一準備会」への対応について、総評としての最終的態度を決める十一月総評臨時大会を前に労働戦線「統一」の動きが活発化し、総評を大きくゆさぶっている。

### 右翼的再編の尖兵をかって出た 「本部」革マル反動分子弾劾!

かかる動きの中で、動労「本部」反動分子は、「右翼的労働統一にハドメをかけた七月総評大会」「大勝利」などと手ばなしで大宣伝し、かかる危機的な屈服的姿勢を全面的に美化Ⅱ支持し、広範な労働者を武装解除し、自らも右翼再編の最前列に座わろうとしている。彼らが、例のごとくほんの口先だけでベテンの「右翼労働統一反対

この「右翼的労働統一」の動きは、危機に立つ支配階級の80年代政策としての軍事大國化攻撃を頂

(裏につづく)